

第 28 号

2000年3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



第5水門上位の堤防に伴う石垣（T111:南東から）

## 城内施設の解明へ！

—総社市・鬼城山—

いつ、何のために造られたのか？そして築城を計画し、建設を推進した主役は誰か？

国指定史跡鬼城山は温羅伝説の舞台として古代吉備のロマンを彩っています。岡山県古代吉備文化財センターでは、今年度の国庫補助事業として、平成11年8月6日から城内の発掘調査を実施しています。

これまで、6年にわたる総社市教育委員会に

よる発掘調査によって、東西南北に配置された城門が精査される一方、全国で初めて角楼が発見されるという大きな成果が挙げられて来ました。これらは土塁や水門、神籠石状列石などおもに鬼城山の外郭線を構成する諸施設の存在が解明されるとともに、全国でも有数の古代山城として知られるようになりました。

今回の発掘調査は、今まで解明されていなか

った城内に細長いトレンチを設定し、今後の広範な保存整備に役立てるための考古学的な資料を得るため、計画実施されるものです。

発掘調査は岡山県教育委員会が総社市教育委員会の協力を得て行っています。これは鬼城山の公有地化にあたり、岡山県と総社市はいち早く協力して鬼城山全域の買収に取り組んできた経緯があり、今までの発掘成果を生かした保存整備計画を視野にいたしたものです。

当初、発掘調査は7月から開始する予定でしたが、自然保護団体から確認調査計画の再検討を求める要望が出され、暗礁に乗り上げてしまいました。文化財の保護と自然保護は今まで一体のものとして理解していましたが、文化財サイドの大幅な譲歩によって「合意」という結末となりました。その結果、史跡指定や公有地化に奔走した先達をはじめ、多くの歴史研究者によって強く望まれていた湿地やその縁辺の調査は実施することができなくなりました。

このような経緯の後、一月遅れの8月6日から発掘を開始しました。保安林内の発掘作業であるため作業面積の制限（1～9期に分割）、樹木の伐採制限、そしてトレンチ付近の貴重植物の有無など自然保護との調整等、さまざまな制約の中での発掘開始となりました。

発掘調査は最高所の西門付近からほぼ時計回りに進め、県有地・市有地併せて約30haに及ぶ

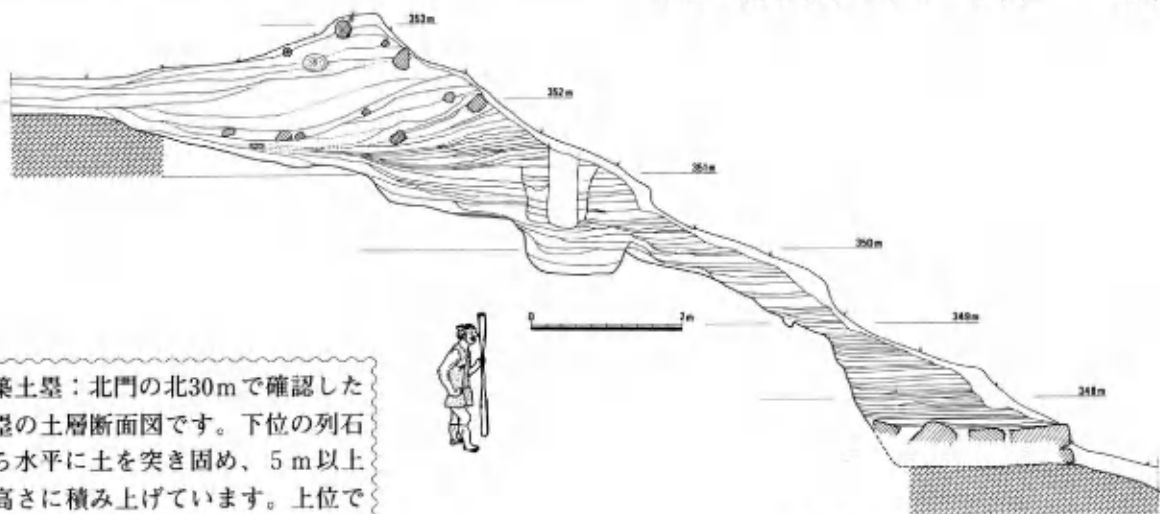
広大な城内に約120本のトレンチ（幅2m）を設定し、発掘→記録（遺物の取り上げ・写真撮影・実測）→埋め戻しという一連の作業を繰り返して進めて行きます。

鬼城山の最高所から北の尾根では、建物を構成する柱穴が見つかり、付近から多量の土器が出土しました。鬼城山が築かれた時期を示唆する7世紀後半の須恵器や土師器は、築城に携わった人々あるいは、防備にあたった兵士たちの日常生活に使われた食器と考えられます。

また第4水門の北西の尾根では、新たに列石が見つかり付近から輪の羽口片と鉄滓のほか7世紀後半の須恵器が出土しました。さらに東門の上部では、堅穴遺構の一部が検出され、鉄滓・炉壁片のほか砥石や須恵器も出土しています。これらは城内で使われた工具や武器などの鉄器制作を示唆する遺物として特筆されます。すでに存在が知られていた礎石建物は、新たに6棟目が確認され、丹念な造成工事の痕跡も確かめることができました。

第5水門上位には、堤防状の張り出しが存在することが知られていましたが、今回設定したトレンチでは石敷を伴う石垣が発見されました（写真）。堤防の存在と補強を裏付ける貴重な遺構と考えられます。

鬼城山は吉備史跡県立自然公園として広く親しまれていますが、21世紀に向けての整備がよいよ始まろうとしています。（岡田 博）



版築土壘：北門の北30mで確認した土壘の土層断面図です。下位の列石から水平に土を突き固め、5m以上の高さに積み上げています。上位で直径40cmの柱穴が見つかりました。

T54土層断面図 (1/100)

## いまおかはいじ 今岡廃寺の発掘調査

今岡廃寺は岡山県の北東部に位置する英田郡大原町今岡にある、白鳳時代（今から約1350年前）に創建されたと考えられる寺院跡です。当時はどのような名称だったのか分からないので、今岡にあった、今は無くなってしまった寺院ということで今岡廃寺と呼んでいます。

今回、大原町今岡地区の圃場整備事業が行われることになり、大原町教育委員会の依頼により岡山県古代吉備文化財センターでは、昨年度に今岡廃寺を含めた工事予定地内の遺跡確認調査を行い、今年度は工事によってやむを得ず影響を受ける部分について、発掘調査を行いました。

その結果、今岡廃寺の寺域（寺院の敷地）が一町（108m）四方である可能性が高いことや、白鳳時代に創建され、奈良時代を通じて営まれていたこと、寺域の北側には同時期の集落跡があることなど、多くの新事実が判明しました。

これらの新発見のうち、今回は寺域の北側に広がる集落跡で見つかった大形の柱穴と、出土した軒瓦についてご紹介しましょう。

この大形柱穴（左下写真）は今岡廃寺の北約50mの地点で2つ発見されました。柱穴はそれぞれ直径約120cmの方形と楕円形をしており、深さは90cmほどありました。この柱穴の中には、建物を構成する柱材の根本部分がそのまま残っていました。柱材は太さが40cmほどもある檜で、



大形柱穴と柱材



今岡廃寺出土軒瓦

下端には運搬用の輪状の切り込みがあります。また、柱材の下には建物が重さで沈下しないように、根石が敷かれていました。

これらの柱穴から推定される建物の規模は当時の一般的な建物をはるかに凌駕する大規模なもので、その性格として今岡廃寺を建立した豪族の居宅、今岡廃寺の附属施設、英多郡（大原町の古代の行政区画）の役所の出先機関などが考えられます。

今岡廃寺から出土した軒瓦（右上写真）のうち、上は複弁八弁蓮華文軒丸瓦、下は三重弧文軒平瓦といいます。

このうち、軒丸瓦の文様は奈良県法隆寺西院伽藍の瓦を基準とする法隆寺式軒丸瓦とよく似ており、今岡廃寺建立に際し、中央政府あるいは畿内の豪族から工人の派遣などの技術支援があったことを示唆しています。

寺院の建立には当時の最先端の技術と多くの資財、労働力、期間が必要であり、今岡の地に強大な支配力をもった豪族が存在したことを物語っています。

今回の発掘調査は部分的な調査だったこともあり、塔や金堂などの伽藍を明らかにすることはできませんでしたが、以上のように、古代の岡山県を考える上で多くの貴重な手がかりを得ることができました。

（佐藤寛介）

## センターの年間事業(平成11年度)

### 調査第一課

平成11年度、調査第一課は、課長1名、第一係10名、第二係9名の計20名(うち市町村から2名)、他に文化課兼務・岡山市派遣各1名からなり、埋蔵文化財の普及啓発、報告書の整理・刊行、発掘調査、分布調査などの事業に対応しました。

5月27日・28日には全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会の総会が北海道苫小牧市で行われ、当センターの葛原克人所長が新会長に就任いたしました。今後とも、埋蔵文化財の保護・保存につきましてのご協力・ご助言・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

さて、普及啓発事業は7月31日に市町村教育委員会の協力を得て、第12回目の「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査の報告会」を岡山県生涯学習センター大研修室にて行いました。

発掘調査事業では、本誌8頁に掲載した2～20遺跡を第一係が対応しました。第60回国民体育大会の主会場に関連する津島遺跡の全面発掘調査(16)、試掘確認調査(2～15)、市町村指導の確認調査(17)と発掘調査(18・19・20)、地滑り災害防止に伴う立会調査(12)、第二係は発掘調査(21)、確認調査(22・23・24)を行い、2係で21遺跡22,241㎡の発掘調査を実施しました。

報告書の刊行は第一係が、昭和43・44年に実施された県総合グラウンド武道館予定地(津島遺跡)、県営圃場整備(加茂東廃寺)、市町村関係では、勝北町町道西村西上線拡幅(西村古墳群)、勝田町屋内ゲートボール場建設(石ヶ坪遺跡)、第二係が山陽自動車道(高塚遺跡)を行いました。

報告書の整理は、第一係が県総合グラウンド武道館予定地(津島遺跡)、第二係が主要地方道箕島高松線改良(上東遺跡)、一般国道429号改良(金井戸・見延遺跡ほか)を担当しました。

分布調査関連では、本年度が県内遺跡詳細分

布調査事業の2年目にあたり、総社市・倉敷市・玉野市・笠岡市・児島郡・都窪郡・浅口郡・小田郡・後月郡・吉備郡の4市11町2村を対象とし、10月から関係市町村教育委員会ならびに県内研究者の皆さんの協力を頂き現地踏査を実施いたしました。2月末までの集計では200件を超える遺跡が新たに発見され、昨年度とほぼ同数の1000件以上になると思われます。

### ＜岡山城二の丸跡＞

本遺跡は県立図書館建設に伴い、平成11年10月から平成12年1月まで確認調査を実施しました。岡山市丸の内2丁目(丸ノ内中学校跡地)に11本のトレンチ(1250㎡)を掘開し、新たに



二の丸(内部)南・西面角の石垣(南から)

多くの知見を得ることができました。まず、二の丸(内郭)と二の丸(外郭)を隔てる内堀の形状と正確な位置が判明し、堀の底面は海拔0m、その上幅は39～52mと推定されます。内郭の南・西面には石垣が築かれており、外目安橋を配した外郭の東内にも石垣があり、その石垣は北端角から西に折曲り約3.5mほどで終結しています。そこからの北面は石積みを持たない土手の形状が西に継続して伸びています。

さらに、南側のトレンチでは宇喜多時代の堀の発見により、今日の岡山城の城郭の起源、石山時代の城域の規模にまで興味が及びそうです。

(高畑知功)

## 調査第二課

平成11年度の調査第二課は、2係18名全員が、奥津町において建設省苫田ダム建設関連に伴う発掘調査に従事しています。平成10年度の3班9名に比べ倍の調査体制で取り組んでいます。

今年度の調査は、骨材（ダム本体の砂）を採集する予定地になっています。久田原遺跡、堀ノ内遺跡がその主な対象遺跡です。

久田原遺跡は、奥津町久田下原にあり、平成8年度から調査を続けています。そしてこの遺跡の調査範囲は60,000㎡におよぶ広大な面積です。上層は弥生時代から古墳時代の洪水による砂層からなり、近世から中世・古代さらに古墳時代後半期の遺構があります。この砂層を1.5～2m除去しますと古墳時代前半期から弥生時代（後期～中期）、縄文時代晩期の遺構面が存在することが昨年までの調査で判明していました。

中世の主な遺構は、掘立柱建物群・土塋（土塋墓）・溝・ピット群などで、掘立柱建物は遺跡の南東部に20数棟が集中し、2×3、3×3、4×4、4×5間などの建物がみられ、その中の大きい建物の中には、柱穴底部に根石を配したのものなどもみられました。

土塋は、掘立柱建物に伴うもの（トイレ?）、単独でみられるもの、鉄釘・小皿などをもち土塋墓と考えられるものなど種々のものがあります。

遺物としては、土師器の小皿・杯、瓦質の鍋・釜類、備前焼（すり鉢・甕・壺）、勝間田焼（小皿・椀・鉢・甕）、亀山焼、瀬戸焼、青磁、白磁などの土器類、鉄刀、刀子、鉄鏃、鉄釘、鏝、鉄などの鉄器類、吹子の羽口、炉壁、砥石、鉄滓など数多くのものが出土しています。

古代（奈良～平安）の遺構は、掘立柱建物、土塋、溝などです。掘立柱建物は2×3、2×4間のものが多いのですが、中には2×2間で総柱になるものも何棟か検出されています。

出土遺物は、土師器の甕・杯、須恵器の杯、鉄鏃、刀子、鉄釘、吹子の羽口、炉壁、砥石、鉄滓などです。

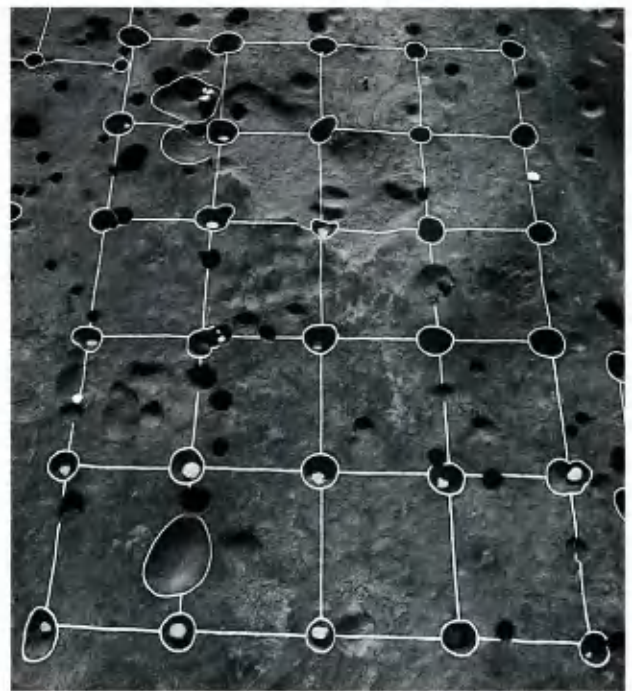
古墳時代の遺構は、後期の竪穴住居と思われる方形～円形状のもの、主体部は不明ですが一辺

18mの周溝をもつ方墳、横穴式石室、小竪穴式石室、土塋などで、方墳からは小形丸底壺、甕、横穴式石室からは、須恵器の高杯、平瓶などが出土しています。

下層では弥生時代中期の竪穴住居、土塋、溝などが、さらに縄文時代晩期・後期の竪穴住居、土塋、焼土面などが検出されています。遺物は、土器のほか、磨製石斧、石棒、石鏃、石鏃などが出土しています。

堀ノ内遺跡は、現状において幅3～4m、南北・東西に100mほどの逆L字状で周辺より1段低い水田があり、この堀に囲まれた中世の館跡を中心とする遺跡です。今年度は館跡の中心部およびその東と南東部の調査を行っています。先ほどの堀内外から掘立柱建物、土塋、堀、溝などがみられます。また南東部の下層からは、弥生時代中期の竪穴住居等も検出されています。

箱E遺跡は、県道箱湯原線の付け替えにあたり一部調査を行いました。鉄滓や羽口など近世のたたら関係のものが多く出土し、その他に土塋（墓）、柱穴などを検出しています。また包含層からは、縄文時代早・前・中・後・晩期の土器が出土しています。（伊藤 晃）



久田原B3区 建物113検出状況（北から）

### 調査第三課

本年度の事業

#### 第一係

- ・旭川放水路（百間川）（発掘調査）通 年  
（報告書作成）通 年
- ・国道2号拡幅（発掘調査）4月～8月  
（報告書作成）9月～3月
- ・京橋共同溝（報告書作成）10月～3月
- ・建設省藤原宿舎（発掘調査）11・12・2・3月

#### 第二係

- ・美作岡山道路（吉井町・熊山町・佐伯町）  
（発掘調査）通 年
- ・岡山自動車道四車線化  
（発掘調査）10月～3月

#### 第三係

- ・国道313号（発掘調査）通 年
- ・ふるさと農道（発掘調査）4月
- ・県道堀坂勝北線（発掘調査）4月～6月  
（報告書作成）7月～8月
- ・広域農道（発掘調査）5月～12月

#### 発掘調査概要

旭川放水路の調査は、昨年度後半に引き続いて岡山市原尾島の百間川原尾島遺跡を実施しました。当遺跡は、微高地端部から低位部にかけて弥生時代前期～中世の遺構が見つかり、とくに古墳時代後期の<sup>45</sup>大溝から出土した<sup>46</sup>門穴をもつ木製扉は中四国では例がなく、特筆されます。

国道2号拡幅の調査は、岡山市原尾島から沢田にかけての国道沿いの一角を実施しました。調査地点は微高地に近い低位部にあたり、おもに弥生時代後期の前半から古墳時代後期の水田（6面）と溝多数が見つかっています。

藤原宿舎の調査は、岡山市藤原西町の原尾島遺跡の一角の510㎡を実施し、古代の水田2面と中世の土壌などが検出されました。

美作岡山道路の吉井町分は、来光寺跡、立道A・B遺跡、平岩古墳などの調査を実施しました。前二者は昨年度の拡張部分の調査を引き続いて行い、おもに中・近世の建物跡などが多数検出されました。平岩古墳は、石室が無袖の胴張りを呈し、現長9m、最大幅2m、高さ推定2.3mの規模を誇り、近隣では最大級の石室でした。

副葬品の耳環1、鉄刀・鉄鏃数片、玉類10数個、須恵器杯数個体などの断片から、築造の時期は6世紀末と思われます。

美作岡山道路の熊山町分は、昨年度に引き続いて大畑遺跡を調査し、他に岡遺跡・境ヶ鼻遺跡・土井遺跡・慶運寺遺跡などの確認調査を実施しました。大畑遺跡は、新たに弥生時代後期の<sup>47</sup>堅穴住居3軒、<sup>48</sup>段状遺構9か所、<sup>49</sup>袋状土壇18基、<sup>50</sup>土壇墓20基などが検出されました。

美作岡山道路の佐伯町分は、新規発見の小坂八ヶ奥遺跡・同八ヶ奥製鉄遺跡の調査と小坂古墳群・散布地の確認調査を実施しました。小坂八ヶ奥遺跡は、約30×40mの範囲に弥生時代後期後半の<sup>51</sup>堅穴住居7～8軒と柱穴多数が検出され、多量の弥生土器片も見つかりました。この集落から南西に約50m離れた山腹にある<sup>52</sup>製鉄遺跡は、<sup>53</sup>製鉄炉2基とその作業場、そして横口付炭窯2基（1基は未完成）の遺構が見つかり、平安時代末頃の須恵器片数片とともに多量の鉄滓や炉壁片が出土しています。製鉄炉のうち1基は筒形炉の可能性が高く、注目されます。

岡山自動車道の調査は、総社市服部遺跡と北溝手遺跡の一部について、二車線分の橋脚46基約3000㎡を実施し、おもに弥生時代後期の粘土<sup>54</sup>採掘坑や溝などが多数見つかりました。

国道313号の調査は、湯原町の<sup>55</sup>敷造山城と下湯原B遺跡を実施しました。前者は郭面の一部と堀切が2か所、後者は6世紀末～7世紀初頭の<sup>56</sup>方形堅穴住居7～8軒と建物数軒、それに溝数条や中世の柱穴多数などが検出され、<sup>57</sup>儀鏡1面と<sup>58</sup>鏡形土製品1点の出土が特異です。

ふるさと農道の調査は、勝央町田井たれをず遺跡の継続で、弥生時代後期の<sup>59</sup>堅穴住居や<sup>60</sup>段状遺構などを検出しました。

県道堀坂勝北線は、勝北町山形福田遺跡の調査を実施し、弥生時代中期後葉の<sup>61</sup>堅穴住居1軒、<sup>62</sup>建物10棟、<sup>63</sup>土壇数基などが見つかりました。

広域農道の調査は、熊山町奥吉原の水口遺跡を実施し、弥生時代中期の<sup>64</sup>堅穴住居や古代～中世の土壌などが検出され、住居床面出土の石杵（ベンガラ付着）が注目されます。（柳瀬昭彦）

## 平成11年度埋蔵文化財担当職員研修会

今回で13回目を迎える埋蔵文化財担当職員研修会は、平成12年2月24日に当センターを会場に、県および42市町村の担当者75名の参加を得て開催されました。

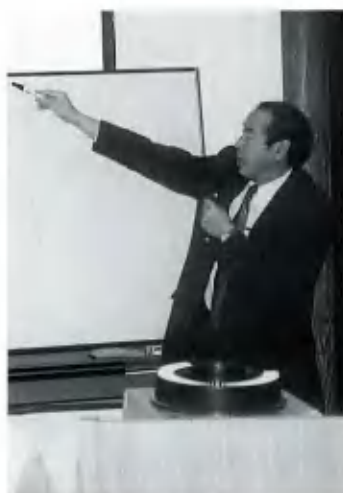
この研修会は、県内の行政機関で、実際に埋蔵文化財の保護に携わっている職員の資質の向上を図ることを目的に、隔年に実施しているものです。

今年度は、講師に奈良国立文化財研究所飛鳥

藤原宮跡発掘調査部長の黒崎直氏とノートルダム清心女子大学教授の高橋護氏をお迎えし、ご講演をいただきました。

黒崎氏には、「飛鳥池遺跡と富本銭」と題して、飛鳥池遺跡のこれまでの調査の成果を踏まえて、富本銭の持つ歴史的な意義をわかりやすく講演していただきました。各種の貴重な発見が相次いでいる飛鳥池遺跡の中でも、特に注目を集めた富本銭について、その年代の特定の過程や和同開珎との関わり、さらには富本銭の鑄造とその時代的な背景についても言及され、大変興味深い内容でした。

また、高橋氏の講演は、「農耕文化の検証」と題され、プラントオパール分析等を通して、農耕文化の起源を検証していくという視点でのお話でした。プラントオパール分析等によって解明された栽培種の存在は、長期にわたって農耕が営まれていたことの立証としてとらえることができるとされ、各地の例をスライドで実例を交えて指摘されました。また、こうしたプラントオパール等の分析は、考古学を専攻している者自身が、考古学的な見地から行うべきであるなど、大変示唆に富んだ講演となりました。



黒崎直氏の講演



高橋護氏の講演

## テレビ会議システム

岡山県情報ハイウェイ構想の一環として、当センターにテレビ会議システムが導入されました。現在、岡山県庁、地方振興局、市町村役場をはじめ、高等学校および大学機関など約140箇所からの利用が可能です。

このテレビ会議システムは、従来の電話等による音声のみの対話から相手方の映像を交えた会話が可能で、実際に土器をテレビ画面で見ながら話をすることもできます。今後、学校教育の一部として、また文化財に関する問い合わせ等、コミュニケーション手段の一部としての利用が期待されます。



ただいまテレビ会議システムで会話中…

# 岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧(平成11年度)

	遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1	県内遺跡詳細分布調査	岡山県内	遺跡の保護・保存	分布	旧石器～中世	4.1～3.31	県内全域
2	里山田下谷遺跡	小田郡矢掛町里山田	県道矢掛寄高線改良	確認	弥生～近世の集落	4.19～4.26	40㎡
3	鹿田遺跡	岡山市鹿田本町	県立岡山病院建て替え	確認	平安～近世の集落	6.1～6.8	60㎡
4	原尾島遺跡	岡山市藤原西町	建設省藤原宿舎3号棟(仮称)新設	確認	弥生の水田、中世集落	6.14～6.18	20㎡
5	北坂奥遺跡	赤磐郡吉井町黒本	一般農道整備(是里2期地区)	確認	弥生～古墳の集落	8.9～8.12	100㎡
6	蔵が端貝塚	邑久郡邑久町豊原	地方特定道路整備(牛窓・邑久・西大寺線)	確認	遺構確認されず	10.4～10.6	55㎡
7	長縄手遺跡	備前市西片上	県立備前高校武道場改築	確認	奈良の集落	10.4～10.18	470㎡
8	加茂東院寺	御津郡加茂川町下加茂	県営加茂川町園場整備	確認	弥生～近世の集落	10.18～11.24	210㎡
9	榎月小学校遺跡	勝田郡勝央町榎月中	一般国道429号改良	確認	遺構確認されず	12.6～12.10	60㎡
10	二宮遺跡	津山市二宮	一般国道53号津山北バイパス建設	確認	弥生～近世の集落・墓	1.17～1.24	60㎡
11	且山遺跡	真庭郡久世町中原	県北流通センター造成工事	確認	弥生の集落	1.17～1.28	256㎡
12	且山遺跡	真庭郡久世町中原	県北流通センター造成工事	立会	弥生の集落	3.1～3.7	1,550㎡
13	山ノ奥遺跡ほか	勝田郡勝北町上村	農免農道整備事業(上村山形地区)	試掘	弥生～古墳の集落	2.21～3.15	125㎡
14	高松沼田遺跡	岡山市高松原古才	高松農業高校園芸実習室建設	確認	遺構確認されず	10.22	65㎡
15	津島遺跡	岡山市いづみ町	国体関連整備	確認	弥生・古墳の集落、弥生～近世の水田	7.1～9.29	600㎡
16	津島遺跡	岡山市いづみ町	国体関連整備	全面	弥生・古墳の集落、弥生～近世の水田	1.5～3.31	1,000㎡
⑬	ウエノ山遺跡ほか	真庭郡川上村下徳山ほか	村道森山高原線改良改築	確認	縄文の落とし穴	6.15～7.14	451㎡
⑭	ウエノ山遺跡	真庭郡川上村下徳山	村道森山高原線改良改築	全面	遺構確認されず	10.12～10.27	4,071㎡
⑮	高越遺跡	井原市神代町ほか	高越城址整備	全面	弥生の集落	6.16～7.7	500㎡
⑯	今岡庵寺	英田郡大原町今岡	大原町今岡地区園場整備	全面	白鳳の寺院、古代～中世の集落	10.18～12.6	420㎡
21	九番丁場遺跡	苫田郡鏡野町布原	国道179号バイパス建設	全面	古墳の集落	4.5～12.1	4,878㎡
22	鬼城山	総社市奥坂	国指定史跡整備	確認	古代山城	8.6～3.31	5,830㎡
23	池ノ下散布地	総社市西阿曾	国指定史跡整備	確認	古代～中世の土器跡	2.14～3.9	170㎡
24	岡山城二の丸跡	岡山市丸の内	県立図書館建設	確認	近世の城郭跡	10.4～1.29	1,250㎡
25	久田原遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文～中世の集落	4.1～3.31	47,320㎡
26	堀ノ内遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文～中世の集落	8.25～3.31	9,070㎡
27	箱E遺跡	苫田郡奥津町箱	苫田ダム建設	全面	縄文～弥生、中・近世の集落	9.20～11.26	840㎡
28	百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	旭川放水路(百間川)改修	全面	弥生～近世の集落、弥生の水田	4.1～3.31	2,520㎡
29	沢田遺跡・原尾島遺跡	岡山市高屋・藤原地内	国道2号拡幅	全面	弥生～中世の集落・水田	4.1～8.31	1,706㎡
30	原尾島遺跡	岡山市藤原西町	建設省藤原宿舎3号棟(仮称)新設	全面	古代～中世の水田	11.18～3.17	510㎡
31	大畑遺跡ほか	赤磐郡熊山町ほか	美作岡山道路建設	全面	弥生の集落ほか(確認含む)	4.1～3.31	5,579㎡
32	小坂八ノ奥遺跡・八ノ奥製鉄遺跡	和気郡佐伯町小坂	美作岡山道路建設	全面	弥生の集落、古代の製鉄	11.4～12.4	1,260㎡
33	来光寺跡ほか	赤磐郡吉井町ほか	美作岡山道路建設	全面	古墳、中～近世の集落ほか(確認含む)	4.1～3.31	6,957㎡
34	服部遺跡・北溝手遺跡	総社市黒尾・北溝手	岡山自動車道4車線化	全面	弥生～中世の集落	10.1～3.31	3,000㎡
35	藪登山城跡ほか	真庭郡湯原町豊栄ほか	国道313号改良	全面	奈良時代の集落、中世山城	4.1～3.31	3,950㎡
36	田井たれをず遺跡	勝田郡勝央町田井	ふるさと農道緊急整備	全面	弥生の集落	4.5～4.22	336㎡
37		勝田郡勝央町曾井	ふるさと農道緊急整備	確認	遺構確認されず	4.12～4.16	33㎡
38	山形福田遺跡	勝田郡勝北町山形	県道堀坂勝北線改良	全面	弥生の集落	4.5～6.17	500㎡
39	水口遺跡	赤磐郡熊山町奥吉原	広域農道整備	全面	弥生～近世の集落	5.10～12.16	3,945㎡
40	水口遺跡	赤磐郡熊山町奥吉原	広域農道整備	試掘	遺構確認されず	8.4～11.22	625㎡

○数字は市町村指導の発掘調査(調査主体は以下の通り)  
 ⑬⑭森山教育委員会、⑮井原市教育委員会、⑯大原町教育委員会



## 編集・発行 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211

FAX (086) 293-0142

http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm

◎交通案内

・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分

・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

開館時間 AM9:00～PM5:00

休館日 土曜日・日曜日および祝日、年末・年始